



明るくやさしさに溢れる石神井中

石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山根 浩孝

平成31年2月5日

第9号

仲間と助け合う

校長 山根 浩孝



新しい年を迎え、早いもので一ヶ月が過ぎ、気が付けば、まとめの時期に近付いております。石神井中学校は4月に多くの1年生を迎え、体育祭、合唱コンクール等では、たくさんの地域、保護者の皆様に来ていただきました。学校公開日への参加、学校アンケートへの協力等、地域・保護者の皆様が、石神井中学校のことを温かく見守っていただけたこと、本当にありがたく思っています。今年も教職員一同、力を合わせて、改善できるところは改善に努め、生徒、保護者、地域にとって安全で安心できる学校になれるように、努力をしていきます。

昨年一年を振り返ると、日本中に大きな被害をもたらした災害がたくさんありました。平成30年6月には大阪府北部で震度6弱の地震、7月には記録的な猛暑もありました。7月の西日本豪雨は、平成最悪の水害と言われ、多くの被害が出ています。1月の新聞に、岡山県倉敷市真備町での災害のことが掲載されていました。その記事を見ると、午前0時ごろから堤防が決壊して、市街地の大半が浸水。浸水の深さは深いところでは5mにも達し、多くの住民が逃げ遅れました。消防や自衛隊による救出作業が行われましたが、多くの方が被害に遭われ、「人が流された」「水で床が浮いてきた」等助けを求める電話が深夜、鳴り続けたそうです。その時の県警副署長さんは「何もかも想定外の出来事だった。」と話しています。災害のニュースを聞く度に、その恐ろしさを思い知らされるとともに、多くのことを教えられます。私たちはこれからも、過去の災害を忘れずに、危機管理意識をしっかりとつことが大切です。



この冬休みには、多くのスポーツが行われました。サッカー、ラグビー、駅伝等、連日、素晴らしい活躍をする選手の姿を見ることができました。スポーツ界等様々な世界で活躍している人たちは、子どもの時から夢や希望をしっかりともっていて、それに向かって努力してきたことがよく紹介されます。今は輝かしい活躍をしている人たちも、時にはうまくいかなかったり方向転換したりしても、その時々新たな夢や目標をもち、夢を追うことには、常に前向きです。

先を見通して計画的・段階的に目標を達成することは簡単なことではありません。具体的な目標がないまま、一日一日を過ごしてはいつまでたっても目標に近づくことはできません。ぜひ、各ご家庭でも夢や目標について、話題にしてみてください。目的意識を高くもった子どもほど確かな成長をされると言われています。子どもの着実な成長は、何気ない日々の努力の積み重ねによって成し遂げられるものです。常に先を見通し、具体的な目標をもって、毎日を過ごしてほしいと思います。始めは、小さな目標、半歩前進でもよいのです。まずは、小さな目標をやり遂げて、「自分は頑張れた。」と思えることを積み重ねていってください。

これからは、各学年とも締めくくりの段階に入ります。一年生は二年生、二年生は最上級生になる準備の時、そして、三年生は3年間の中で最も苦しい試練の時を迎えます。この一年の中には、皆さんにとって、苦しいこと、つらいことが待ち受けているかもしれません。そんな苦しい時こそ、仲間のことを考え、思いやりの気持ちをもって、助け合ってほしいです。「苦しいのは、自分だけではない。苦しい時こそ、一緒にがんばってきた仲間のことを考え、乗り越えてほしいと思います。石中生には、あきらめずに最後まで目標に向かって努力できる生徒でいてほしいと思います。

これは、各学年とも締めくくりの段階に入ります。一年生は二年生、二年生は最上級生になる準備の時、そして、三年生は3年間の中で最も苦しい試練の時を迎えます。この一年の中には、皆さんにとって、苦しいこと、つらいことが待ち受けているかもしれません。そんな苦しい時こそ、仲間のことを考え、思いやりの気持ちをもって、助け合ってほしいです。「苦しいのは、自分だけではない。苦しい時こそ、一緒にがんばってきた仲間のことを考え、乗り越えてほしいと思います。石中生には、あきらめずに最後まで目標に向かって努力できる生徒でいてほしいと思います。